

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	和歌山市立 楠見東小学校	棚田 修司
学校所在地		
〒 640 - 8471 tel 073(451)3424 fax		
担当者名		担当教科
平尾 和明		6年生
<p>〔学校の概要〕</p> <p>楠見地区は、和歌山市の北部に位置し、北は和泉山脈の南斜面、南は紀ノ川の堤防沿い、東は鳴滝川、西は南海電車線沿いに区切られた地域である。地域内には、弥生時代の倉庫群と考えられる鳴滝遺跡や日本でも珍しい馬冑、馬甲が出土した大谷古墳がある。本校は宅地造成にともなう人口増加により、楠見小学校が超マンモス校になり、これを解消するため、3分割して生まれた学校である。特別支援学級を含め、学級数は16、職員数は28人、全校児童数は323人である。</p> <p>「どの子にも豊かな心と学力を」をテーマに研究主題を「一人ひとりが思いや考えをもち、互いに伝え合い、学び合おうとする子どもの育成」とし、国語科を中心教科として子どもの伝え合う力、コミュニケーション能力の育成を目指している。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 6年生 49名	職員 4名	教室
実践研究テーマ		
一人ひとりが思いや考えをもち、互いに伝え合い、学び合おうとする子どもの育成		
実践教科等名	単元名	
国語科・総合的な学習の時間	国語科「未来をよりよくするために」 総合「和歌山県の世界遺産を知ろう」	
〔キーワード〕 和歌山県 熊野古道 世界遺産 郷土		
〔単元目標〕		
<ul style="list-style-type: none"> わたしたちの郷土和歌山県には、世界に誇れる世界遺産があることを知り、その環境の大切さを考えるとともに、自分たちのまわりの環境を大切にす気持ちと態度をもつ。 互いの考えの違いや意図をはっきりさせ、計画的に話し合うことができる。 よりよい未来を巡る自分の意見が説得力をもつように具体例や資料を集め、適宜図表やグラフなどを用いることができる。 		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体 13 時間 （「次世代育成事業 世界遺産を体験しよう」 5時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
特に関連せず。		

実践に関する事項

〔単元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	「未来がよりよくあるために」 (国語科 2 時間) 導入	・次世代育成事業を体験することも含め、見通しを持たせ、どんな未来にしたいのかを、自然環境に目を向けて考える。	・単元の活動に対して、興味を持つことができているか。(発言・ノート)
2	和歌山県の文化の素晴らしさを知り、和歌山県をもう一度考える機会を持つ。 (総合的な学習の時間 6 時間)	・次世代育成事業を行う高野山について、基本的な情報を NHK「プラタモリ」を見てあらかじめ学習しておく。 ・自分で追究したいことを本やインターネットで調べる。	・興味をもって積極的に活動に参加することができるか。 (発言・態度)
3	授業参観 (総合的な学習の時間 1 時間) 高野山で学んだことに関して、資料を集め、高野山について学んだことを授業参観で発表する。	・グループで追究したいことを本やインターネットで調べ、参観日を通して、発表する。	・自分の発表に必要な情報を収集したことを生かして、発表することができるか。 (発表)
4	国語科「未来がよりよくあるために」 (国語科 4 時間) 意見文を書き、お互いの意見文を読みあい、感想を伝え合う。	・意見文の構成表の例を参考に、自分の意見、根拠となる出来事や資料、予想される反論とそれに対する考え、自分の意見とまとめを考え組み立てる。 ・意見文を読みあい、分かりやすい事例だと思ったり、説得力がある書き方だと思ったりしたところを伝え合う。	・自分の発表に必要な情報を収集し、意見文を書くことができているか。 (意見文) ・友達の発言で、自分の考えを深めたり広げることができるか。 (発言・感想)

〔単元学習の成果と課題〕

国語科「未来がよりよくあるために」と総合的な学習の時間を中心に授業を進めていった。子どもたちの興味がある NHK の「プラタモリ」を導入にし、疑問や不思議を明らかにし、身近な場所である、高野山から自分たちの未来について考え、特に自然環境についての自分の意見、根拠となる出来事や資料、予想される反論とそれに対する考え、自分の意見とまとめを考え組み立てて考えることができた。
課題としては、意見文を書く際にもう少し、次世代育成事業での体験を自分事としてとらえ、子どもの意見文が子どもたちの意識のなかでうまくつながっていない部分があった。

〔世界遺産学習の効果〕

和歌山市で生活していると、和歌山県に世界遺産があること自体意識していない。何か自分とは違う地域のものと思っている児童が大半であった。実際に世界遺産に指定されている場所で話を聞き、自分たちの足で歩くだけでも、子どもたちにとっては貴重な体験であり、和歌山県の世界遺産を意識するきっかけになった。
教科書や本、新聞やニュースで情報を受け取るのではなく、実際自分の目で見ることによって、子どもたちにも心に残る体験となった。子どもたちの興味のある世界遺産が身近にあり、今後も守っていくべき自然にも目を向けることができた貴重なものであった。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

様式 2

平成30年度 次世代育成事業における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

10月16日(火)に高野山に行った。
まず初めに、高野山・壇上伽藍で世界遺産マスターの5人の方の紹介があり、5グループに分かれて金堂、御影堂、松の木の説明を聞きながら歩き、子どもたちも、メモをとりながら質問をしながら興味をもって聞いていた。
昼食後は、高野山・奥の院の一の橋から弘法大師御廟まで5グループに分かれて案内していただいた。子どもたちの興味がある戦国時代の豊臣秀吉、明智光秀、武田信玄勝頼等の墓所もあり、興味深く見学していた。また、NHK「プラタモリ」で出てきたフグの供養塔やパナソニックやクボタといった普段聞いたことがある会社の墓所、五輪塔の説明をしていただき、映像だけでなく、実際に行き説明を聞き、実感を伴った学習になった。
和歌山市からの参加で、高野山まで1時間30分ほどで世界遺産・高野山に到着し、実際に目で見て、空気感を感じ、世界遺産マスターの方に説明していただき、午前中に壇上伽藍や金剛峯寺を見学し、午後からは奥の院の一の橋から弘法大師御廟まで見学し、有意義な時間を過ごすことができた。また、お天気にも恵まれ、子どもたちにとっても新しい和歌山県の姿に出会えた1日となった。



高野山での学習を終えてからは、10月19日(金)の授業参観にむけて、世界遺産高野山、空海、壇上伽藍、金剛峯寺、奥の院のグループに分かれて、世界遺産マスターの方に教えてもらったことや自分でより詳しく調べたことを画用紙にまとめた。授業参観では、保護者の方の前でグループごとに写真や図を工夫して利用して発表した。
また、国語科の意見文にも、子どもたちは、「高野山の素晴らしい世界遺産をこれからも残して行ってほしい。」や「外国の人にもたくさんあって世界からもたくさん人が来る場所が和歌山県にもあることが分かった」や「世界から注目されている素晴らしい高野山を残していくためにも未来へ高野山の素晴らしさを伝えて、受け継いでいくことが大事だと思います」といった意見が書かれていた。



11月13日(火)に前回時間の都合で実施できなかった世界遺産講座が本校楠見東小学校で実施された。世界遺産条約のことや世界遺産になるための条件や危機遺産についての説明を受け、知っている世界遺産が画像に映し出されて興味深そうに聞くことができた。また、先日訪れた高野山も世界遺産であり、今後も自然を守っていく必要があり、未来に受け継いでいく重要な世界遺産であることを再確認できた。
実際に、壇上伽藍や奥の院を案内していただき、世界遺産講座も聞かせていただき、和歌山県に、このような重要な世界遺産があることが分かり、より一層、未来に受け継ぐことの重要性が分かったようであった。



